

## 医は仁術！教育もまた然り

内科検診、尿検査、眼科検診、歯科検診、心臓検診……。年度始めから続く一連の検診等が一通り終わりました。健やかな身体づくりは、人としての成長の源です。先週 19 日に、「ほけんだより 7 月号」と、生徒各自への「定期健康診断の記録」を配付しました。今後特に受診や治療の必要がある場合には、ぜひこの夏休みの期間を利用して確実に対応していただきたいと思います。

さて、特にコロナ禍を経て、医療従事者の皆様のご苦労ご努力には、これまで以上に深い敬意の念を抱いています。看護師、医療技師、事務員等の皆さん、そして、もちろんお医者さんはたいへんな職業だと痛感します。

医師は教員と同様免許が必要ですが、司法試験と並んで最も難関な国家試験に合格しなければなりません。誰もが簡単にはなれない職業です。一般的に、社会的地位も高い職業だと思います。

私も、学生時代の友人、教え子、教え子の保護者、学校医、銀行員時代の取引先等々、知り合いの中には多くのお医者さんがいます。また、自分や家族が診察していただいた方もいます。今回は、私が出会ったお医者さんの話から。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

<内科医のA先生>

自宅の近所の開業医で、代々妻の実家のかかりつけの 70 歳代の先生である。患者は近所の顔見知りの方ばかり。医院の建物は質素で地味な佇まい。

「インフルAかなあ？ Bかなあ？ 検査キットが切れてるからわからんなあ。」「この痛みの原因は何だろうなあ。とりあえず痛み止め出しておくか。」なんて対応でやや不安で頼りない面はあるものの、夜中の 2 時だろうが 3 時だろうが、嫌な顔一つせずに起きて親身に対応してくれる。「義母さんは元気にしてるか？」「子育ては順調か？」など、受診の間、いつも家族を気遣う優しさにあふれた世間話のお

陰で、痛みが和らぐような気分になったものだ。

### <小児科医のB先生>

子どもが幼い時分に世話になった先生。医院は、いつも大勢の子どもでごった返している。総合病院から独立した開業医で、近隣の遠くの市町村からも来院する。朝6時に無人の医院の玄関ドアが自動で開錠し、入口の所定の箱に診察券を入れた順番で診察となるので、朝の5時台から行列ができた。冬の猛吹雪が吹き付ける早朝などは、さすがに並ぶのがつらかった。

受診は実にてきぱき。看護師とも阿吽の呼吸で、泣き叫ぶ子どもたちを、次から次へと無駄な動きなく受診する。親御さんへの病状等の説明も丁寧で歯切れがよく、とても評判がよかった。しかし、口の悪い知人の中には「強い薬を使っているから治りが早い、っていう評判だよ」などと揶揄する人もいた。

### <内科医のC先生>

自分が担任するクラスの子の父親で、大学病院勤務。その子が風邪で休んで学校に再登校してきた際に、「いいなあお父さんがお医者さんだと。薬もお父さんが用意してくれるの？」と聞いたら、「父はいつも『安易に薬に頼るな。栄養をとって安静にしていることに限る』としか言いません」と。そのお父さんとは面識はなかったが、周囲からは「人格者」との評判で、その娘の教え子も、教師である自分が恥ずかしくなるほど立派な生徒だった。

### <眼科医のD先生>

我が娘が幼い頃、目が痛いと言いだした。休日だったので、急患受け入れ先を探したところ、ようやくひとつの開業医が見つかった。ちょっと遠い場所だったが娘を連れて行った。長い間待たされてようやく受診となったが、診察途中で外線の手話機が先生宛にかかってきた。先生は、我が子の診察を中断して電話に出た。電話の内容が聞こえてきた。どうやらゴルフ会員権のセールスのようだった。決して短くない時間、笑い声を交えながら、泣いて痛がっている我が子をよそに電話を優先していた。許せなかった。

### <眼科医のE先生>

行列ができる眼科の開業医で、白内障・緑内障等の名医と言われ、特に高齢の患者でいつも医院はいっぱいだった。

「めくら（※差別語ですが事実なのであえて）になってもいいのか」「何でもう少し早く来なかったんだ」など、患者を怒鳴る大声が待合室までいつも響いていた。何とも乱暴な先生だと思っていたが、手術の腕の良さはもちろん、「口は悪いけど患者のことを第一に考えてくれる」「誤解されやすいけど、本当は思いやりのあるやさしい先生なんだ」というのが患者さん方の評判だった。なるほど、あれだけたくさんの方が来院するわけだった。

### <耳鼻科医のF先生（の奥さん）>

御主人は、私が銀行員の営業マンの時の取引先の開業医。いつも患者でいっぱい、県内でもトップクラスの高額納税者、つまりお金持ちだった。毎月、銀行の手続き関係で、自宅に出入りしていた。ものすごい豪邸だった。初めて訪問した際に、奥様から厳しく叱責された。「うちに来る時には、インターホンで銀行の名前なんか名乗らないで。黒い営業カバンも持たずに手ぶらで入って。誰が聞いたり見たりしているかわからないでしょ。前任の担当者とちゃんと引き継ぎしたの？ しっかりしてよ。」大事な顧客とはいえ、上から目線の言動にいつも閉口していた。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

さて、同じ「先生」と呼ばれる立場で、同じ、免許が必要な職業、人間を相手にする職業人として、先生方は上記内容をどのように受け止めますか？

授業がうまい、部活動指導が一流、業務が迅速。もちろんそれはそれでとても素晴らしいことですが、教師としてそれよりも一番大切なことは、私は、「子どもの心に寄り添う」ということだと思います。そして、偉ぶらない、偉そうにしない。

医師が人の病気やケガを診て治すプロならば、私たちも、子どもの心を癒し成長をサポートするプロであるわけですから。